



草刈り隊の設立による持続的な体制づくり

平地農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

非農業者等を含む
草刈隊結成

組織の広域化
・体制強化

はぐく

とよおかし

コウノトリ育むろっぽう（兵庫県豊岡市）

- 地域ではコウノトリ生息環境に配慮した環境創造型農業が盛んで、畦畔の管理が重要な一方、草刈りが重労働で担い手も農家個人も労力や経費に多大な負担。
- 非農家が参加する「草刈り隊」と農家の役割分担を明確にし、担い手の大型機械を活用した省力化に交付金を支出することで、担い手および農家個人の負担を軽減し、持続的な体制づくりを確立。組織的な草刈りが可能になり、従前よりきめ細やかに。
- また、草刈り隊の活動により、地域で農業への関心が高まり、担い手・後継者を育てる機会になっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 356.4ha
(田 345.9ha、畑 10.5ha)
- ・資源量 水路 106.4km 農道 49.6km
ため池 1箇所
- ・主な構成員 営農組合・自治会・
女性会・子供会・
小学校PTA
- ・交付金 約 31百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- コウノトリ生息環境に配慮した環境創造型農業が盛んで、畦畔の管理が重要な一方、草刈りが重労働。
- 草刈りは共同活動の対象でなく、担い手構成員個人が全範囲を年4回草刈りしているが、個人により時期や状態にムラがあった。



コウノトリと密接した営農



負担が大きな農業者
個人の草刈り作業

取組内容



- 法面畦畔の草刈りを共同活動として位置付け、交付金の支出対象に
- 地域住民・若手農家による「草刈り隊」を23人で設立し、年5回活動
- 担い手の大型草刈り機を活用
- 交付金を草刈の日当や機械の使用料に活用



草刈り隊(地域住民)



機械貸与

交付金

担い手

多面組織

取組の効果

- 草刈り隊と個人の役割分担で、個人は作業範囲が半減
- 担い手の大型機械を活用して大幅に省力化
- 担い手は個人への草刈り労賃支出が半減し、機械使用料が収入に
- 草刈り回数は4回⇒5回に増加し、時期や状態にムラがなく、きめ細やかに
- 草刈り隊の活躍が地域で農業の関心を高め、後継者を育てる機会に





大学生との交流を通じた中山間集落の活性化

山間農業地域



キーワード

都道府県独自の取組

なかむらのうちほぜんきょうぎかい

たかぐんたかちょう

中村農地保全協議会（兵庫県多可郡多可町）

- 中村農地保全協議会は、平成19年から前身である農地・水・環境保全向上対策による活動を実施し、住民参加による草刈り、水路の清掃、水路の補修、獣害防止柵の整備などに取り組んでいる。
- 平成28年の近隣小学校の閉校に伴い、跡地活用に大学生の農業体験施設として利用することを目的に、県内大学の協力を得て交流を開始。地元においても受け入れ体制整備に至る話し合いを重ね、地域外からの外部交流者を受け入れる地域の意識醸成を図った。
- 大学生との交流で、農村の現状と改善策を検討。学生も現場を知り体験することで、お互いに利益のある関係を築き、長期的交流を実現。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 12.1ha
（田 11.1ha、畑 1.0ha）
- ・資源量 水路 6.6km 農道 5.5km
ため池 1箇所
- ・主な構成員 自治会・農会・老人会
婦人会・子供会・消防団
- ・交付金 約 0.9百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 高齢化により参加者が減少し、地区内のみでは活動の継続が懸念
- 小学校が閉校し地域の活力が減退
- 農業者が減少し、耕作放棄地が増加



学生による草刈り作業

取組内容



- 大学生の実習やサークル活動体験の場として活用
（黒豆種まき・山田錦田植え・黒豆枝豆収穫・餅つき・とんど祭り
R4 活動4回 学生計41人参加）
- 学生による地域活性化のアイデア・情報発信⇒遊休農地へのラベンダーなどを栽培・商品化等や農業後継者育成の基礎になる活動を住民とともにいった。



山田錦田植え

取組の効果

- 小学校の閉校により消えかかっていた子供の笑顔や若者の笑い声が田んぼを舞台に蘇ってきている。
- 都市部の若者の力を借り、農業の担い手不足の解消を図っている。
- 大学生との交流の中で、都市住民に農村の現状を理解してもらい、共に現状改善を検討。学生にとっても現場を知り体験することが大切で、お互いが利益のある関係を築き上げることで長期的交流が実現できた。



さつまいもの収穫



餅つき・とんど祭り



ICTなどを活用したスマート農業を支える取組

山間農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

デジタル技術
の活用

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積26.8ha
(田26ha、畑0.8ha)
- ・資源量 水路9.5km
農道2.3km
- ・主な構成員 営農法人、自治会
民間企業
- ・交付金 約2.4百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

みやおきしげんほぜんかつどうたい ひめじし

宮置資源保全活動隊 (兵庫県姫路市)

- 地域住民の話し合いを重ね、現在担い手農家を中心に農地の集積を行い、ほ場整備による農地の大区画化の工事が進行中。
- ほ場整備に合わせ大型農機具の自走走行システムやドローンによる農薬・肥料の散布、育成データを採取し可変施肥を行うセンシングなどICTを活用したスマート農業を目指しており、多面の活動において草刈り等の省力化に向け、ムカデ芝の植栽や管理を行うとともに、大学、企業と連携して、ムカデ芝定植後の初期雑草を抑え成長を促す防草シートなどの開発を行い、スマート農業を支える取組を行っている。
- 担い手農家による後継者の育成、自治会による地域内外の人の交流を促進した地域活性化に取り組んでいる。

活動開始前の状況や課題

- 以前のほ場整備から40年近く経過しており、水路、畦畔の改修が課題であった。
- 少子化による人口減少・高齢化の課題があった。
- 農地1区画の面積が小さく農作業機械の大型化による省力化対応に課題があった。



以前のほ場

取組内容



- 農地の集積化・集約化の話し合いの機会となっている。
- ムカデ芝の植栽や管理を行うとともに、大学・企業等と連携し、防草シートの開発し、草刈り等の省力化に取り組んでおり、ICTを活用したスマート農業を支えている。
- 地域の小学校・中学校と連携し米作り、野菜作り体験や生き物調査による食育を推進している。



ムカデ芝の植栽



米・野菜作り体験教室

取組の効果

- 食育の推進や地域内外の人の交流を促進した取り組みを通し農家だけでなく非農家へも農業への理解が広がった。
- 担い手農家と地元生産法人による加工品の開発・販売などの6次産業化、高付加価値化が図られ、イチゴ、ナス、とうもろこしなどの農産物の販路拡大も進んでいる。



ほ場整備による農地の大区画化



農用地等を活用した景観形成活動の推進

山間農業地域



キーワード

地域外からの人の呼び込み

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積9.8ha
(田9.7ha、畑0.04ha)
- ・資源量 水路4.3km
農道1.9km
- ・主な構成員 農会・自治会・老人会
・消防団・営農組合 等
- ・交付金 約0.7百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

かんのんじのうちほぜんきょうぎかい

たかぐんたかちょう

観音寺農地保全協議会（兵庫県多可郡多可町加美区観音寺）

- 観音寺保全協議会は、平成19年から農業用施設の維持管理のため、本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策による活動を実施。
- 農用地への菜の花・そばの作付けで美しい田園風景を保持
- 協議会は営農組合や菜の花エコプロジェクト（町内6集落で構成し、菜の花栽培による美しい景観づくりと循環型農業の確立を目指すプロジェクト）と連携して、農地の保全に取り組んでいる。
- 木の家プロジェクト（田舎ならではの多様な経験、体験から学びながら地域貢献を目指す大学生の団体）の参加により農業従事者の人材不足の解消を図っている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、主な基幹作物は水稻であり、農地や農業水利施設等の維持管理が必要不可欠である。
- 過疎化、高齢化が進行しており、耕作放棄による遊休農地が増加してきている。
- 維持保全活動の継続や地域資源の発掘・活用を図り、地域ぐるみでの活動を展開していく必要がある。



農用地等の点検・機能診断

取組内容

- 農用地への菜の花・そばの作付けで美しい田園風景を保持
- 遊休農地への作付けで農地を有効活用



連携・協力

- 営農組合や菜の花エコプロジェクト
- 木の家プロジェクト(大学生の団体)
菜の花の刈り取り、そばの種まき、田植え、稲刈り等の手伝い



農地への作付け(菜の花畑)

取組の効果

- 木の家プロジェクトの参加により農作業の人材不足の解消ができ、学生にとっても農業への関心を高める機会となっている。
- 農地維持・共同活動が営農組合や菜の花エコプロジェクトの活動の下支えとなり、人と環境に優しい有機農業の推進を支援している。
- 景観形成活動の副産物である菜種油・そばなどを地域資源ブランドとして加工販売

ひょうご安心ブランドに認証



そば



コシヒカリ
「千のしずく米」



なたねの
菜っちゃん
(菜種油)



地域と学校の協働による「地域参加型の学校づくり」支援

おおやまちく のう・すい・かんのかい

たんばささやまし

大山地区 農・水・環 の会（兵庫県丹波篠山市）

- 平成26年度から10集落1組織で活動を開始し、組織内の更なる連携強化を図るべく、令和2年度に広域協定を締結した。広域化のメリットを活かし、10集落が協力し合い、協働して地域の課題解決に向け活動を行っている
- 丹波篠山ブランドである黒大豆や丹波栗に加え、ひょうご推奨ブランドの「大山スイカ」や地域特産品である「天内芋(あもちいも)」の栽培を行い、ブランド力の向上にも力を入れてきたが、農業者の中核が高齢化し継承が困難となってきた。
- その中で、活動組織の構成団体である(一財)大山振興会と大山小学校とが従前から取り組んできた里山保全活動をきっかけとし、農業体験学習へと発展。先人が残してくれたこれらの大山ブランドを地域の宝物として次世代に守りつなぐ意識が高まっており、農地維持活動が地域ブランドの生産環境を下支えしている。

中間農業地域



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 149.0ha
(田140.0ha、畑9.0ha)
- ・資源量 水路84.5km ため池14箇所
農道33.0km
- ・主な構成員 農会、土地改良区
自治会、PTA
(一財)大山振興会
- ・交付金 約16.6百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

キーワード

地域資源の
安全管理

教育機関との
連携

組織の広域化
・体制強化

活動開始前の状況や課題

- 大山地区には大山スイカや天内芋といった地域の特産品があるが高齢化により年々収量も減少しており、地域ブランドの継承や活性化が困難な状況にあった。



大山スイカ



役員会

取組内容



- 大山小学校による大山スイカの栽培体験



苗の定植



- 獣害対策の学習



獣害防止柵の設置

取組の効果

- 地域の小学生が植え付けから収穫まで獣害対策も施しながら農業体験をすることで、食の大切さが再認識され、さらに地域への愛着が増進された。
- 「天内芋」は学校給食の食材としても採用されるなど、地域でも好評価を得ている。



天内芋



天内芋の収穫



地域全員参加で魅力あるふるさとづくり

中間農業地域



キーワード

・活用
・ノウハウの蓄積

みのばたのうちみずかんきょうほぜんたい

すもとし

三野畑農地水環境保全隊（兵庫県洲本市）

- 人・農地プランや中間管理事業を活用し、新規就農者や若者の経営者等の受け入れを積極的に行い、集落内での荒廃地・遊休農地を未然に防ぎ、世代交代も進んでいる。
- 集落営農の意識が高く、よりよい営農手段、地域活性につながる意見交換会や地域交流活動などを行って近隣住民との連携をとることにより、生産組合としてのグループ営農、新規参入した果樹園、オーガニックファームなど多様な経営体が育ち、集落全体で地域農業の活性化に努めている。
- 県文化財指定の里山の共同保全意識が強く、里山を中心に、地域活動、自然の保全管理に幅広い年代から積極的に参加している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 34.4ha（田 34.4ha）
- ・資源量 水路 13.6km 農道 6.1km
ため池 43箇所
- ・主な構成員 農会、水利組合、
生産組合、自治会、
子供会
- ・交付金 約2.6百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 高齢化・少子化による農業労力の不足。農産物価格の不安定さ。
- 平成16年の台風でため池が決壊し、集落が大被害を受ける。
ため池や里山の維持管理の重要性を認識。



施設の点検・清掃



ため池付帯施設の直営施工

取組内容



- 人・農地プランや中間管理事業を活用した新規就農者らの受け入れ。



- 農業用水として利用する43箇所のため池の維持管理バツファーズの整備や猪対策班の結成。



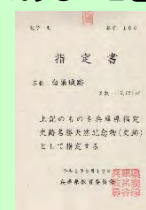
- 県文化財指定の白巣城跡や里山での地域交流。



防護柵の直営施工

取組の効果

- 新規就農者や多様な経営体が育ち、世代交代も進んだ。
また、農地の集積、流動化も促進した。
- 災害に強く、維持管理しやすいように、主なため池の改修工事を実施。
- 野生動物共生林整備へ発展し、里山の大切さを考える契機になった。
- 白巣城の歴史と白巣山の自然をとりまとめた「しらっさん」を発行。
里山とため池は貴重な動植物の宝庫であることを地域で共有した。



県指定史跡の指定



ふるさと継承冊子づくり



担い手育成と基盤整備実現による地域農業への貢献

山間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

うちまかんきょうほぜんくみあい(ひょうごけんとおおかしうちまち)

内町環境保全組合(兵庫県豊岡市内町)

- 地域で農業に対する関心が低い状況の中、農地の老朽化や担い手の高齢化により今後の営農が懸念
- 非農家地域住民も含む集落全体で「地域資源保全管理構想」策定を通じた「ワークショップ」の開催により、地域農業の将来について検討
- ワークショップを通じて、担い手育成や集積集約、基盤整備の検討が加速化
- 担い手の集落営農法人化や農地中間管理事業の活用、基盤整備事業の事業化による地域の農地を将来に渡り保全し、豊かな環境を守る体制を確立

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積17.8ha
(田17.6ha、畑0.2ha)
- ・資源量 水路7.3km
農道1.7km
- ・主な構成員 営農組合、土地改良区
自治会、子供会等
- ・交付金 約0.8百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 集落営農組合の高齢化により将来の営農が懸念
- 地域で非農家の農業に対する関心が低い状況
- 現在は放棄地はなく良好に営農しているが、近い将来、耕作放棄地の発生が懸念
- 農地が区画狭小や湿田状態で、水路老朽化等により営農に支障



営農に支障のあるほ場



老朽化した水路

取組内容

- 地域で農業や環境への関心を高めるために「ホタル観察会」を開催
- 保全管理構想策定の機会を通じて非農家地域住民を含む集落全体でアンケートやワークショップを開催
- ワークショップで地域農業の将来や環境保全を話し合い
- ワークショップを発展し、地区内で担い手や基盤整備の研究会を発足



多様な世代が参加した
ホタル観察会



集落全体ワークショップ

取組の効果

- 地域で農業の将来や環境保全に対する意識が向上
- 担い手集落営農の法人化や農地を中間管理機構に貸付け、集落営農へ集積集約を推進
- 基盤整備に取組み、大区画化や水路管路化で生産性の高い農業を計画
- 地域の農地を将来に渡り保全し、豊かな環境を守る体制を確立



基盤整備
イメージ

基盤整備と併せた集積集約を推進(集積率97%)



えいのうくみあい うだし あすなろ営農組合（奈良県宇陀市）

- 本組織では、水稻や軟弱野菜（ミズナ・ホウレンソウ等）、ダリア等の栽培がさかん。全国レベルで優良とされる農業法人を中心に地産地消にも力を入れている。
- 国営総合農地開発事業で整備を行ったが、約30年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。
- 本交付金の活動により、農道や水路の補修を計画的に行うことができおり、今後も集落内で協力しながら、農地を守っていくという機運が高まっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積33.59ha
（田20.7ha、畑12.89ha）
- ・資源量 水路6.5km 農道1.5km
ため池3箇所
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
自治会、農業法人
- ・交付金 約2.37百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 国営総合農地開発事業で整備を行ったが、約30年が経過し、施設の老朽化が進行。
- 農地の維持や老朽化した設備の更新を行うため、本交付金の活動を開始。



農業用ハウスでの小松菜栽培



取組内容

- 農道の舗装について、計画していた箇所を毎年進めている。
- 水路について、本交付金を活用して一体的な補修が完了し、施設を長く使い続けることにつながっている。
- ため池についてもゲートの更新等に活用している。



泥上げ作業と「とんど」（農村文化伝承）

取組の効果

- 日々使う施設が更新されることで、営農意欲もわき、各農家の耕作の継続につながっている。
- 大規模な農業法人や非農家も協力して共同活動を行うなど、本交付金の活動を通じて、地域のまとまりができてきている。
- 令和2年度には、農地を有効に活用し、農業の生産性の向上を図るために知事がエリアを設定する奈良県の特定農業振興ゾーンに指定。今後も集落内で協力しながら、農地を守っていくという機運が高まっている。



農道整備前



農道整備後



ささぐくのうすいかんきょうほぜんくみあい うだし
篠楽農水環境保全組合（奈良県宇陀市）

- 平成29年度より本交付金による取組を実施。
- 農地保全のための水路、農道の維持・補修や、景観の管理に力を入れている。
- 地域を流れる宇陀川沿いの桜並木は、桜の時期には多くの花見客で賑わう。景観形成の一環として行っている雪洞の設置等の活動には、若者や女性が積極的に参加。地域の交流の機会にもなっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積12.2ha
（田11.9ha、畑0.3ha）
- ・資源量 水路3.0km、農道1.2km
ため池1箇所
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、
女性会、子ども会等
- ・交付金 約1.03百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化の進行。農家の後継者不足の深刻化。
- 農地の保全や地域農業の活性化を図るために活動を開始。



桜並木周辺の草刈り・ゴミ拾いの様子

取組内容

- 農地の維持管理のための基本的な活動のほか、桜並木沿いの雪洞（ぼんぼり）の設置、周辺の草刈り、ゴミ拾い、桜の枝の剪定など、景観形成の活動にも取り組んでいる。
- 雪洞の設置等には、若者や女性も積極的に参加。地域で協力して取り組んでいる。



雪洞設置作業の様子

取組の効果

- 桜並木の管理活動や、年に一回開催する「桜祭り」に、若者や女性、帰省者が多く参加することで、地域の世代間交流の貴重な機会となっている。
- 今後も活動を継続し地域を次世代に引き継いでいけるよう、知恵を出し合っていこうという機運が生まれている。



満開の桜と桜祭りの様子



おおたちいきしげんほぜんかい

なちかつうらちょう

太田地域資源保全会（和歌山県那智勝浦町）

- 本地域は那智山を源流とする2級河川太田川の下流に位置している。地域内には区画が整った水田が広がっており、水稻の栽培が中心である。また、ブランドイチゴである「くろしおいちご」も栽培されている。
- 平成23年に発生した紀伊半島大水害の被害（農業用施設の損壊や農地への泥土流入）により、営農継続が困難な状況となったが、多面的機能支払を活用した水路の補修等を実施することにより、耕作放棄地化を防ぐとともに営農を継続することができ、その後も共同で行う農地維持活動を通して、農村コミュニティが維持されている。
- 組織の設立にあたっては、事務を担う人員を集落ごとに確保することが難しかったことから地域全体の7集落（市屋・中里・下和田・長井・中ノ川・井鹿・庄）で組織を構成することとし、継続的な農地の保全活動に取り組んでいる。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積77ha
（田75ha、畑2ha）
- ・資源量 水路48km
農道17km
- ・主な構成員 農業者
非農業者（個人）
- ・交付金 約4百万円

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 過疎化、高齢化により農家の農業生産意欲が低下していた。
- 紀伊半島大水害（台風12号）により、耕作放棄される農地が広がる恐れがあった。



台風による農地被害状況

取組内容



- 農業生産基盤である水路の補修・更新を直営施工により実施。延長L=700m
- 地域の子どもが学ぶ太田小学校と連携し、農業用水に関する勉強会資料の作成のほか、共同での田植え体験等を通して、地域住民と交流。
- 収穫祭の餅づくり等地域が一体となった共同活動を実施。
年間総参加人数：850人
構成員の女性の割合：20%



共同で行った田植え状況

取組の効果

- 紀伊半島大水害により耕作放棄される恐れがあったが、水路の補修・更新・管理を行うことで、営農に必要な水が確保でき、地域内の約2.3haで営農活動が継続できた（耕作放棄地化を回避した）。
- 小学6年生を対象に農業用水に関する啓発を行い、地域の農業・農業用施設の理解を深めている。
- 地域が一体となった共同活動を実施し、農村コミュニティが維持されている。



水路管理状況

みやはら しもなかしまこういききょううてい
 宮原・下中島広域協定（和歌山県有田市）

- 本地域は、古くから温州みかんの生産が盛んであり、その持続可能な「有田みかん」産地の発展から日本農業遺産「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」に認定された地域である。
- 地域の共同施設を保全管理するため、有田川土地改良区が本制度への取組を改良区役員を通じて集落に呼び掛けたことで本制度に未取組であった5集落が令和元年度に広域活動組織を設立した。
- 有田川土地改良区は広域活動組織の一員として本制度の事務を担っている。また、集落が行う活動に対する指導・助言や各集落間の調整を担うとともに、近隣の未取組集落への説明等本制度の推進を行っている。

【地区概要】※R4年度時点

・認定農用地面積 198ha

（田 1ha、畑 197ha）

・資源量 水路166km

農道6km

・主な構成員 農業者

土地改良区

・交付金 約7百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

組織設立前の状況や課題

- 集落では混住化が進み、集落住民が共同で作業する機会が減少していた。また、本制度に取組むための中心となる農業者がいなかった。
- 土地改良区では組合員の減少により施設の維持管理負担が増加していた。そのため、受益地末端まで安定的に用水を供給することが困難になる恐れがあった。



設立前の関係者説明会

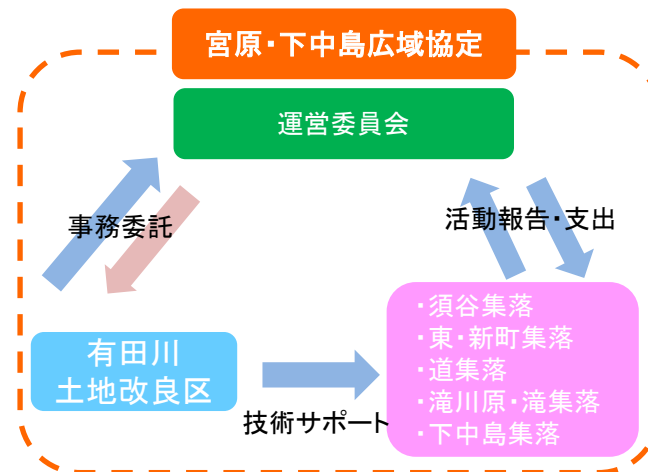


野外学習の様子



広域協定が管理する水路

組織運営内容



＜事務委託の作業内容＞

- ・市への申請書類（計画・変更・交付金）作成
- ・活動記録（日報・参加者名簿）及び領収書の整理
- ・日当等支払額算定、金銭出納簿の作成
- ・長寿命化（資材購入）等の発注・調整・管理・検査
- ・行政との連絡調整

組織設立の効果

集落

- 事務を担ってもらえることで、書類作成等の事務負担が無く本制度に取組むことができた。
- 共同で行う農地維持活動を通じて、将来に向けて農地及び農業用施設を守ると意識が醸成された。
- 豪雨前の水路の水位調整や豪雨後の点検等防災対策を行うことで防災意識が高まった。

土地改良区

- 土地改良区及び組織がそれぞれ管理する区間を明確にすることができた。
- 末端水路を組織に維持管理してもらうことで労力・財政面での負担軽減を図ることができた。